

# 2021年度 社会学演習 ゼミ概要

## ● 天田ゼミ (天田 城介)

担当教員：天田城介

曜日・時限：木曜日・5時限 (17:00～18:40) \*2021年度は木曜日6時限に行います

研究テーマ：自由

**ゼミの特色**：各自の関心・テーマに応じて研究を進め、ゼミ論文や卒業論文にまとめると同時に、夏期に実施するインテンシヴなフィールドワークを踏まえて社会的マイノリティの視点から戦後史を捉え直すプロジェクトを進めています。

なお、2021年度のゼミ全体のテーマは「戦後日本社会における生存の現代史」としました。2016年度は「ドヤ街」と呼ばれた釜ヶ崎や在日コリアンの集住地区である生野などを、2017年度は福岡県における生活困窮者支援や炭塵爆発被害者家族（女性）たちの運動を、2018年度では沖縄において女性や障害者によって担われてきた反戦・平和運動を、2019年度は高齢化する釜ヶ崎における生活困窮者支援や在日コリアンをめぐる人権保障に取り組むNPOなどを、2020年度は京都の被差別部落のまちづくりを行う市民団体と在日ヘイト・スピーチと闘う市民団体・研究者などの調査を行い、当事者や支援者たちの言葉に耳を傾けました（2020年度は新型コロナウイルス感染拡大状況にあったため、オンライン・インタビューを実施しました）。私のゼミでは、そのような社会的少数派の視点から戦後史を読み解きます。また、上記以外では問題関心の近いメンバーでグループを組み、各グループでテーマを決め、フィールドワークに臨んでいます。このように積極的に社会の声に耳を傾け、ふだんは見えないものを丁寧に見るゼミにしています。

天田ゼミでは、フィールドワークなど調査をするゼミ生には現場からこそ徹底的に学んでほしいと思っていますし、文献や資料をもとに分析したいと思うゼミ生には徹底的にそれらを渉猟してほしいと思っています。いずれにしても、最初から「〇〇はこういうことだろう」と決めつけず、現実を踏まえた上で、大胆で自由な想像力をもって思考してほしいと思っています。多様なゼミ生による大胆で自由な想像力を大事に、楽しいゼミにしていければと考えています。このように一人ひとりが主体的に作り上げていくゼミです。

※不明な点があれば、天田 (josuke.amada@nifty.com) に遠慮なく問い合わせください。

## ● 首藤ゼミ (首藤 明和)

- (1) テーマ：社会変動論——社会構造と意味構造から社会の変動を捉える。
- (2) キーワード：意味、時空、コミュニケーション、意識、構造、機能、移動、比較
- (3) 卒論テーマ：自由です。
- (4) 運営方法：卒業論文の執筆を前提とします。①前期は、社会構造と意味構造から社会変動を考察するために、基本文献の講読を行います。また、夏休みのフィールドワークに向けた準備も行います。②後期は、文献講読を継続するとともに、夏休みのフィールドワークの成果も発表します。③3年生は卒論中間報告として「ゼミ論」(4000字程度)を執筆します。
- (5) 自主参加プロジェクト：任意参加型の調査プロジェクトを計画しています。①中国雲南ムスリム研究、②長崎平戸・中国福建・台湾台南を中心とした媽祖(航海女神)研究、③大阪 JR 環状線沿線(大正・芦原橋・新今宮・天王寺・鶴橋)。これらプロジェクトでフィールドワークを行い、卒業論文を作成することもできるように準備中です(情勢により調査を実施しない年もあります)。
- (6) メッセージ：考え続ける(悩み続ける)ことのできる社会、そして悩むことを受け入れることのできる社会は、豊かな社会だと思います。「わかった!」「解決した!」は実は新たな問題の始まりに過ぎません。“考え続ける悩み多きゼミ”を通じて、21世紀を生きる体力と知力を身につけましょう。

---

## ● 新原ゼミ (新原 道信)

新原ゼミ生は、〈地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワーク〉を学び、「うまくいかないときでもなにかは出来る」力をつくってきてくれました。そのおかげか、「コロナウイルス感染拡大」のもとでも、オンラインでのゼミを工夫して行い、この秋には、いくつか実際のフィールドワークも実施することが出来ました。いまゼミ生は、都市・地域、コミュニティ、文化・メディア、家族、生きづらさ、病、ケア、ボランティアなど、自分が考えたい様々なテーマで卒論・ゼミ論に取り組んでいます。新原ゼミでは様々なタイプのひとを歓迎します。ともに場を創っていただけたら幸いです。

以下は、ゼミ生が作成してくれたゼミの概要です：「新原ゼミは、文学部・大学院・FLP 地域公共・国際協力の4つのゼミによって構成され、ゼミ・学部の手をこえた交流・協力をしています。前期はグループワークを中心とした班での調査、夏休みに4つのゼミ合同での合宿、後期は論文執筆を行い、これらの活動の計画をゼミ生自身が考え運営しています。さらに新原先生が受け持つ4つのゼミ同士での活動として、自分の興味関心を院生や他のゼミ生に気軽に相談できる合同プロジェクトや、団地のお祭りなどのイベントに参加し、地域に継続的にかかわる立川プロジェクトなどの有志の活動もあります。ゼミ生の研究テーマは多岐にわたっており、多様な価値観に触れ学びを深めることができます。ガチゼミ(!?)と噂されておりますが、すでに社会に出た先輩から、“危機の瞬間に力を発揮するひとを育てるゼミだったと思います。だからこそたいへんときにはまた帰りたい、みんなの声をききたいと思えるのかもしれない”と言われております。ぜひ勇気を出してゼミを訪ねてみてください。温かく優しいゼミ生がお待ちしております！」

※. [niihara@tamacc.chuo-u.ac.jp](mailto:niihara@tamacc.chuo-u.ac.jp) までご連絡いただければ、個別に相談も可能です。ゼミについては、以下のurl(<https://sociology.r.chuo-u.ac.jp/member/detail/76>)もご参照ください。

---

## ● 野宮ゼミ

### I. ゼミの特徴

- ・ グローバルな社会現象：先進国と途上国とでの貧困、子どもの問題、難民や地域紛争、地球環境、ユニセフなど国際機関の活動など、国際社会現象を扱います。
- ・ 海外で本当の社会調査！！：タイ(2016)、フィリピン(2017)、そしてベトナム(2018)そして 2019 はカンボジアでした。2021 年も、海外調査の可能性を探ります。
- ・ プロジェクト型の授業：各自の興味関心をもとにグループを作り、研究対象の選定から調査を行います。
- ・ 多様な学生の参加：他学部や他学科など、異なるバックグラウンドを持つ学生がゼミに参加します。
- ・ あらゆる研究技能の向上：「読む」、「書く」、「議論する」、「プレゼンする」の4技能すべて学習します。

### II. ゼミの運営方針

#### (1) グループ活動：皆で創る

- ・ 主体性・自主性：
  - 誰かが創るのではない。自分がコミットして創る。
- ・ 協力する：
  - 自分ができる仕事をする。
  - 役割分担をしない。全体を皆で作る、その中で自分ができる仕事をする。
- ・ リーダーを作らない。
  - ゼミ長=なし。

#### (2) 期待する学生の姿：こんな個人になってもらいたい！

- ・ 「千差万別」であることを理解する
  - それぞれ、異なる力を持つ=>ある場面では弱い。しかし別の場面では強い。それぞれが異なる場面で活躍する。
- ・ 周囲の人を公平に見る
  - 誰とでも、対等に話ができ、対等に議論できるひとになる。
  - 隣の人を尊敬できる人になる。偉い人には「えらい!」、すごい人には「すごい!」、頑張る人には「がんばるね!」と言える人になる。
- ・ 自分で縮こまらない
  - 最初から、他の人の後ろに立つな。皆同じ。皆が一からのスタート。
- ・ 人を助ける：
  - グループ活動などで、困っている隣の人をたすける自分になる。
- ・ つきつめる：
  - みんなと徹底的に議論して、問題をどんどん追っていく。

### III. どんな人にピッチのゼミか

- ・ みんなと沢山意見交換して、一緒になって何かを創りたい人。
- ・ 本当に、自分の好きな事柄について海外で調査をしたい人。
- ・ 批判的に考える、自分の考えを提示するためのトレーニングをしたい人。

### VI. どんな人には合わないゼミか

- ・ 日本社会全体の問題や海外で起こっている事柄など、グローバルな視点、国際的な視点に興味のない人。
  - ・ 消極的参加をしたい人。教室の隅に隠れていたい人。ずーっと黙っていたい人。
  - ・ ゼミ調査合宿など、みんなでの活動が嫌いな人。
  - ・ 90分で授業を終了したい人。
-

## ● 矢野ゼミ (矢野 善郎)

矢野ゼミでは、①社会について少しでも理論的に考え、②様々な問題について、国内外で活発に討論することが二大伝統です！ 具体的には、①各自の卒業論文の構想について自由に報告し、それを元にして議論します。②合宿・公開ディベートでは、社会学的な討論の経験を積みます。

たいがい毎年合宿を行います。ここ6年ほど、グローバル・スタディーズとも連動し、海外で合宿しました。韓国、台湾、タイ、インドネシアにて、現地の学生さんと、日本社会と他国とを比較するディスカッションを日本語か英語で実施しました。2020年度は新型コロナのため海外遠征は残念ながらできませんでしたが、年明け2月頃にインドネシア大学と交流することにしております。

2021年度については、まだ見通せないですが、いずれにせよゼミで議論して決めたいです（議論して決めるのも伝統）

**重要な注意：**卒論を書くことを前提にしたゼミです。（ゼミのみんなでバックアップして2年で良い作品を仕上げましょう！3年の時には卒論の中間発表となるゼミ論をだすことになります）。

その他の特徴：論文テーマ自由・出席厳守・飲食自由・差入歓迎・合宿参加必須

### 矢野ゼミ公開ディベート 2021年1月22日（金）

#### 3・4限 オンライン 計2試合（※途中入退室可）

ゼミ伝統の公開ディベートが開かれます。今年度のテーマは「ポスト・コロナの日本社会は、どのような政策をとるべきか？」 班に分かれ、政策提案し、ディベートします。是非、ご覧の上、質問などしてゼミ生を鍛えてやって下さい！（WEBEX等のリンクは、別途ご連絡します）

## ● 小熊（おぐま）ゼミ (小熊 信)

日頃は労働研究の領域のシンクタンクで調査・研究に従事していて、兼任講師としてゼミを担当しています。シンクタンクでは主として、企業や官公庁に働く人びとの調査（賃金の調査、人事評価制度の調査、パワハラに関する調査等、様々です）に従事しています。ゼミでは、私自身としても研究領域を拡げ、「地方都市における産業振興」を研究テーマとし、ゼミ生との共同研究として進めてきました。近年には、以下の研究に取り組んでいます。

2020年度 コロナ禍での働き方・生活に関する研究（小熊ゼミ卒業生インタビュー）

2019年度 山梨県峡東地域における観光に関する研究（山梨県笛吹市など）

2018年度 離島における社会学的研究（東京都新島村）

（※2020年度は訪問しての調査ができなかったことからゼミ卒業生に調査しました）

ゼミでは、3・4年生全体で研究テーマ・調査地を決め、ゼミとして1つのゼミ論（調査報告書）を作成していきます（個々人の卒業論文、卒業研究論文は、ゼミ全体の共同研究と並行して進めていきます）。共同研究では、個々人の関心や視点をぶつけ合いながら、共同研究だからこそできる規模の調査、質の考察をめざしていきます。

グループでの共同研究に取り組みたい（得意・不得意は問いません）。フィールドワークを通じて知らない世界と接してみたい。そのような思いをもたれる方を歓迎します。

## ● 金野ゼミ (金野 美奈子)

### [担当者自己紹介]

2019年度から兼任講師として社会学ゼミを担当しています。これまで、大きく2つの領域に関心をもってきました。ひとつは労働・仕事の社会学で、日本の事務職（「OL」）の歴史、男性労働者と家族、ワーク・ライフ・バランスなどについて研究してきました。もうひとつは社会理論研究で、とくに、多様な考えをもつ人々が共有できる、望ましい社会の構想です。どちらの研究領域でも、とくに注目してきたのがジェンダーとのかかわりです。ジェンダー現象はあらゆる社会領域にみられ、社会の現状を考察するにも、よりよい社会のあり方を考えるにも、恰好の切り口になってくれます。

### [ゼミの目標]

社会がよりよい方向に一步踏み出す後押しとなるべく、社会を生きる人々の経験に寄り添いつつ広い視野からメンバー一人ひとりが思考していくことを、サポートするゼミを目指しています。

### [内容と進め方]

文献講読とそれぞれの研究支援を中心に進めます。文献講読では、私たちの生きる「今ここ」を相対化する手がかりとなるテキストを丁寧に読み、ディスカッションで考察を深めます。それぞれ多様な関心から社会という難題に挑戦するみなさんにとっての共有財産を作ることを目指します。

研究支援としては、個人またはグループによる報告を重ね、メンバー間でフィードバックしあいながら、先行研究の読み込み、研究の構想から実施、論文執筆まで段階的にサポートします。4年生は卒論、3年生はゼミ論執筆が前提となります。研究領域や研究対象、研究方法に制限は設けませんが、どのような領域・対象を扱う場合もジェンダー研究の視点——といっても多様ですが——を何らかの形で取り入れたものをとくに歓迎します。ゼミ運営には全員にかかわっていただきます。合宿などの課外活動はメンバーの希望に応じて行います。

### [メッセージ]

自由な雰囲気大切にしながら、じっくり考える時間をもちたい人を歓迎します。

### [重要なお知らせ]

2022年度サバティカル取得のため、金野のゼミ担当は2021年度末までとなります。3年生の方は、4年進級時にゼミを変更していただくこととなりますので、あらかじめご了承をお願いします。

---

## ● 佐藤ゼミ (佐藤 恵 [さとう けい])

担当教員の本務先は法政大学キャリアデザイン学部です。地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学、社会調査(質的)を専門分野としています。

最近の研究テーマは、震災復興支援、障害者支援、犯罪被害者支援です。これらのテーマを通底する問題意識は、困難を抱える当事者とそれをサポートする支援者との「支え合い」についての研究、すなわち「支援の社会学」ということになります。

なお、関連するテーマとして、以下も追究しています：排除/包摂、排除された人々のアイデンティティ・マネジメントとその支援、異質性への対処/共生、ボランティア/NPO、ピア・サポート/セルフヘルプ・グループ等。

ただし、以上は、あくまでわたしの専門分野・研究テーマであって、もちろんこうしたテーマで論文を書きたいかたも大歓迎ですが、当ゼミとしては、興味の持てるテーマを自分で選定することも重要な学びと考え、社会的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由としています。

ゼミ活動の具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成(構想発表+ディスカッション、論文執筆)、②ニュース記事等に基づくディスカッション、③ゼミ合宿、④イベント・懇親会等です。ゼミの運営方法に関しては、教員主導ではなく学生主体を原則として、そのつどみんなで話し合いながら決めていきたいと思えます。

---

## ● 須長ゼミ (須長 史生)

[担当者について]

2021年度のみ、山田昌弘先生のゼミを担当します。本務校は昭和大学です。外見差別、男性性研究、男性の家事参加、性的マイノリティに対する偏見の研究などを主な研究領域としています。

[ゼミの方針]

自由で主体的な研究活動を行うためには、社会的に考察する力は不可欠です。社会問題について良質な議論ができるようになることが目指すべき最初の目標となります。

1. そこで前期には「正義論」の基礎を身に付けることを目指します。これにより錯綜した問題を解きほぐし、「何が正しいか」について正解に至る形式を身に付けます。基礎といっても平易な社会学の教科書をやり直すのではなく、政治哲学の基礎文献を読み解くことでそれを行っていきます。チャレンジする価値のある収穫の多い作業です。

2. 夏休みにはワンランク上のリゾート地でゼミ合宿を行います。ここで、4年生には卒業論文・卒業研究論文の構想を、3年生にはゼミ論の構想を発表してもらいます。

3. 後期には、4年生には卒業論文・卒業研究論文の作成に向けた指導、3年生にはゼミ論の作成に向けた指導、およびジェンダー論、若者論、家族社会学に関する文献研究を行います。集大成として「ゼミ論集」を作成します。

※ゼミは水曜日5時限目に行います。

[最後に]

山田ゼミの代講なので、「家族」「恋愛」「ジェンダー問題」「若者問題」に関心のある学生が望ましいです。翌年は山田ゼミに無理なく接合できる指導を行います。またそれにとどまらない充実感も保証します。

---

## ● 武川ゼミ (武川 正吾)

〔テーマ〕 労働問題と社会保障の社会学

〔キーワード〕 ケア, 若者と仕事, ブラック企業, ワーキングプア, 女性と仕事, 子育て, 介護, 家族の変化, 地域福祉, 少子高齢化, 雇用, 社会保障, 福祉サービス, 住宅, 等々。

〔運営方法〕 労働問題と社会保障をはじめとする, 広い意味での社会政策に関する基本文献の講読と, 参加者の研究発表が中心に運営します。卒業論文の執筆を前提としたゼミです。また 3 年生は卒論の先行演習としてゼミ論 (4000 字程度) を執筆します。文献報告と研究報告が中心になります。文献リストは授業開始時に配付します。報告者, 司会者, 討論者といった役割を毎回決めて, そのチームプレーでゼミ運営を行います。参加者の関心・人数等によって運営方法は適宜変更します。合宿やコンパは履修者の希望に応じて実施します。キーワードと関連した関心を持つみなさんの積極的な参加を歓迎します。

武川ゼミは 2021 年度までになりますので, 新 3 年生 (現 2 年生) は 2022 年度は別のゼミにて卒業論文・卒業研究論文を執筆することになるので, その点ご理解の上, 選択してください。

---

## ● 田島ゼミ (田島 博実)

1. 当演習 (田島ゼミ) では, それまでの 2 年間の学習を活かしながら, 履修者一人ひとりが自分の問題関心・問題意識を研ぎ澄ませて, 意欲的・積極的に意見交換や, 調査, フィールドワークに取り組み, ゼミ論・卒業論文 (または卒業研究論文) を完成させることを目指しています。また, 講師 (田島) の専門を活かして, 社会人 (企業のマネージャー, 人事担当等) との懇談, 企業訪問・見学の機会をもち, 就職活動に役立つ活動を行う予定です。今年はできませんでしたが, 来年度はできるだけ実施したいと思います。

2. ゼミの調査研究活動の統一テーマとして, 「現代の社会変動と地域 (自治体等), 組織 (企業, NPO 等), 個人の対応」を設定します。これにもとづいて, 経済・政治・文化・社会制度など各社会領域の変動, 地域社会に関わる諸問題, 企業・行政・NPO など多様な組織の活動, 勤労者・消費者・生活者の意識・行動を対象 (研究テーマ) に選んで, 調査研究活動を行ないます。調査研究のテーマは, 幅広く自由に選択することができます。

3. 前期・後期の内容, スケジュールは以下のとおりです。

○前期は, 主に文献・テキストや既存資料にもとづく学習, 報告, 意見交換をします。取り上げる文献等は, 履修者の希望により決めます。今年度は『現代社会学』と『メディア文化論』の 2 つの文献で学習しました。

○後期は, 3 年生は, 小グループもしくは個人研究方式で研究テーマを決めて, 調査やフィールドワークを行ない, 結果報告と意見交換をして, 「ゼミ論集」にまとめます。4 年生は, 卒業論文および卒業研究論文のための文献研究, 調査やフィールドワークを進めて, その経過報告と意見交換を行ないます。

○ゼミ活動の成果 (個人研究, グループ研究) は, 毎年度『ゼミ論集』としてまとめています。関心がある人は, 社会学研究室で閲覧できます。

以上

---